

優秀賞

○設計者

米田 浩二

- 東京建築士会
- 鹿島建設(株) 建築設計本部



○事務所・店舗

オムロンヘルスケア 研究開発及び本社新拠点

- 京都府向日市寺戸町

▶▶▶ 選評

高齢化が進展する中、ますます重要性が高まるホームメディカルケアを担う企業の新しい研究開発・本社拠点である。

全社員へのアンケートによって要望を抽出し、その過程を通じて意識改革を進めた計画手法も興味深い。多様なアクティビティが、“集いと個”をテーマにした快適で創造的なスペースの中で緻密に組み立てられている。なかでも執務オフィスとラボをつなぐアトリウム・スケールは秀逸で、階高を押さえ踊り場をなくした直通階段や、両ウイングを有機的につなぐ連結床によって、優しく緊密なコミュニケーションスペースが実現している。

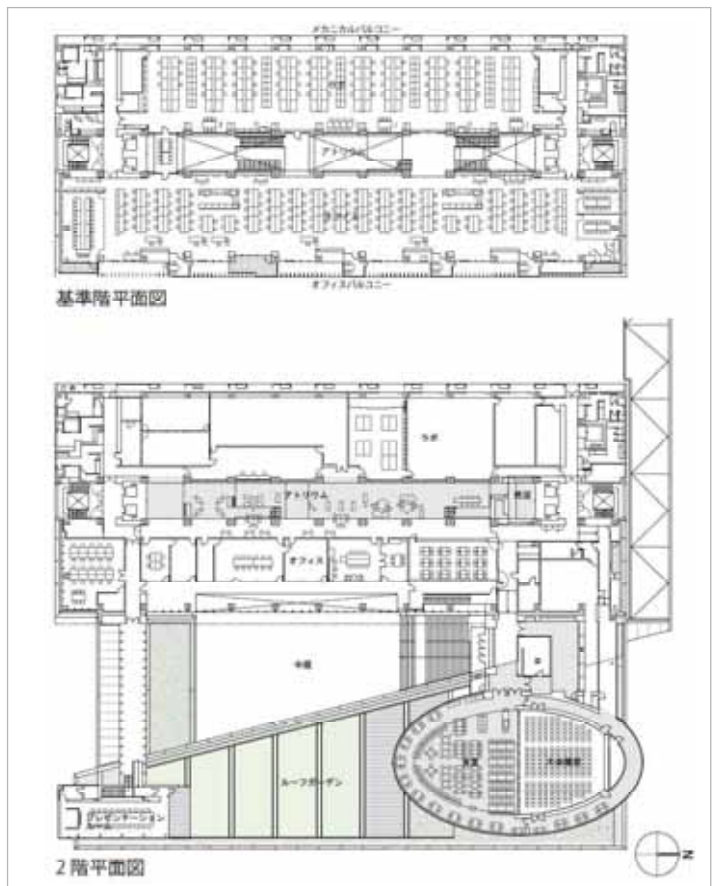
排煙免除や区画緩和などを可能にした避難検証などの防災技術をはじめとし、可動ルーバーによる日射制御、トップライトからの自然換気・自然採光、アンビエントとタスクの空調・照明システムなど習熟した環境技術が総合的に展開されている。

一方、じつはJRに並行する形で配置されたオフィス・ラボは東西に面するものとなってしまっており、厳しい直射光に晒されている。確かに電動ルーバーやエアフローによって執務環境は守られているとは言うものの、無理矢理難しくしてカブくで対応しているようで、高圧電線からの距離を確保するためやむをえなかったという説明は、残念ながらむなしく聞こえた。

(櫻井 潔)



A



2階、基準階平面図



B



C



D



E



F



G



H

- A: オフィスとラボをつなぐアトリウム。多様なコミュニケーションを誘発する
- B: 研究棟外観。右手に食堂が見える
- C: 中庭は、枯山水、打ち水、水のきらめき、水鏡など、水を使った演出により、伝統と先進性が融合した豊かな中庭空間を創出している
- D: 全体模型。建物は中庭を中心とした施設構成としている
- E: 街路と一体となっているビオトープ
- F: オフィス
- G: 中庭からの光が来場者を迎えるエントランス
- H: 内外が一体となった2階カフェ

- 構造・階数: 柱/鉄骨鉄筋コンクリート造、梁/鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造、地上7階建て
- 敷地面積: 9,917.36㎡ ● 建築面積: 4,772.77㎡
- 延床面積: 16,318.49㎡ ● 竣工: 平成23年10月5日

写真撮影: 松村芳治